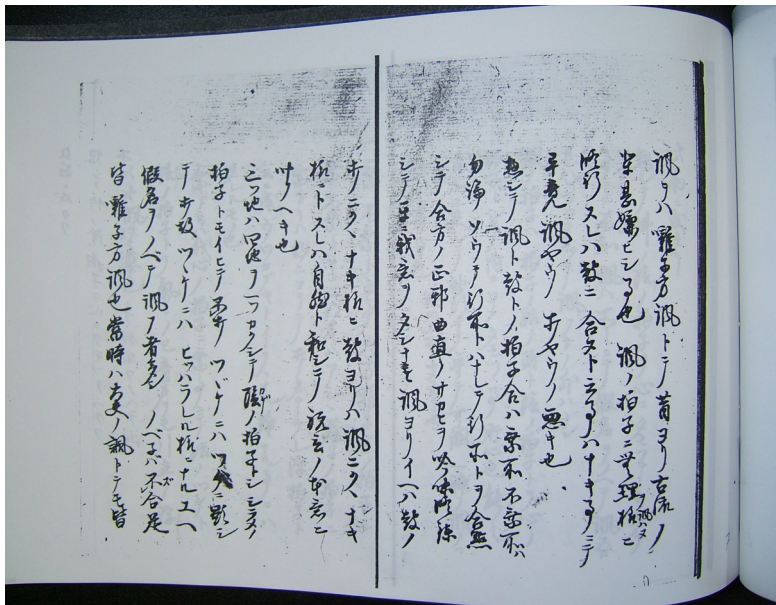
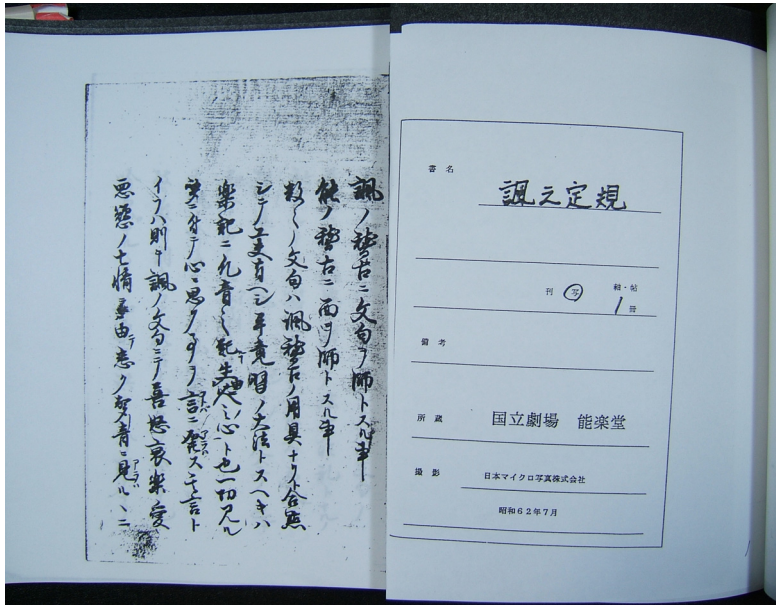


著者不明 『諷之定規』

江戸期の謡伝書。「拍子器用ニテ鼓ノ地クバリヲ覚ヘ、其地クバリニ合様ニ謡フハ、謡ノ本意ニアラズ。サ様ノ謡ヲバ囃子方謡トテ昔ヨリ古流ノ輩、甚嫌ヒシ事也」(後半は、写真下冒頭に見える)という文言等から、拍子に対する態度等の基本が伺える。また写真下後半には、ツツケに合わせて謡う謡い方が、囃子方謡で、太夫の謡は本来そうであつてはならないということが述べられている。他に、乗る／乗らず、引／持等の差への言及があり、次の本(147頁)と合わせ、重要な地拍子資料。



標題 内題：―

標題紙：―

奥附：―

その他：―

著者 奥附：―

その他の場所：―

出版 版次：―

出版地：―

出版社：―

出版年：―

その他の場所：―

形態 冊数：一冊 頁数：―

寸法：―

状態 写本版本の別：版本 現物複写の別：複写

備考 国立能楽堂蔵のものを部分的に複写した

もの。